

# 平成27年度 介護職員就業環境改善事業 移動用リフト導入効果検証業務

---

## 検証結果公表資料

平成28年6月30日  
宮城県保健福祉部長寿社会政策課

# I 事業概要

## 1 内容

県内の介護保険施設等において移動用リフトを試用し、その導入効果の検証を行った。

試用する機種に制限はなく、導入箇所・対象者・機種及びスリングシートの選定は各施設にて行った。

## 2 期間

平成27年11月下旬から平成28年3月31日までの約4か月間

## 3 業務実施事業者・施設

県内の8事業者10施設(公募により選定)

## Ⅱ 効果検証の方法

業務実施事業者から①施設長又は施設内指導者による「業務評価票」及び②直接処遇職員（看護職員・介護職員）による「導入前後チェックシート」を収集し、分析した。

1 業務評価票 8事業者10施設

2 導入前後チェックシート

▪ 提出者数合計 242人

▪ 効果検証有効回答者数 合計 174人

うち男性 61人(35.1%)

うち女性 113人(64.9%)

※ 有効回答者は前後両方のシート提出があった者で、かつリフトを活用していた者（使用率0%は除外）に限定した。有効回答以外については、意見等のみ参考としている。

# Ⅲ 検証結果資料

## 1 総評

## 2 職員検証結果(全体)

(1) 導入前の状況

(2) 導入前後の効果比較

## 3 事業者別検証結果

「業務評価票」及び「導入前後チェックシート」  
集計・分析結果

# 1 総評

## 【導入前の状況と導入による効果】

- 移動用リフト導入前の直接処遇職員へのアンケート調査では、要介護者の移乗時に身体的負担を感じている職員は80.4%、心理的負担を感じている職員は65.5%となっており、介護職員の就業環境を改善し職員の負担軽減を図ることが急務であることを改めて認識するものであった。
- 移動用リフト導入後の調査では、移動用リフト導入により、身体的負担が軽減したと回答した職員は77%、心理的負担が軽減したと回答した職員は44%となっており、就業環境改善等の手段のひとつとして移動用リフトの導入が効果的であることがわかった。
- 身体的負担の部位別では、導入前に腰への負担を感じていた職員が延118人であったところ、導入後に負担が軽減したと回答した職員が延123人となり、導入前に腰痛等を訴えていない職員であっても負担が軽減されたことがうかがえる。
- また、心理的負担では、導入前に怪我や事故防止への配慮による負担を感じていた職員が84人であったところ、導入後に負担が軽減したと回答した職員は48人となっている。ただし、従来の抱え上げ等による移乗よりも安全で負担が軽くなったとする回答が多い一方で、「機器操作に慣れず不安」、「操作を覚える手間が増えた」、「時間がかかり面倒」等の理由により、心理的負担が重くなったと回答した職員が16%いることに留意する必要がある。

## 【事業の結果】

- 本事業の結果としては、一定の負担軽減効果があり移動用リフトの導入に至った施設と、効果的に活用できず導入を見合わせる又は改めて検討が必要であった施設に二分された。
- その理由としては、導入前に必要な検討及び導入後の体制構築が上手く行われたか、又問題があった場合にその理由と解決方法がわかり今後の導入に前向きになったかによるものと考えられる。

# 1 総評(つづき)

## 【試用導入に対する支援と課題】

- 本県では、事業開始前に施設内指導者向けのリフト操作・施設内体制構築のための研修会を開催したほか、事業開始から1月経過後に施設の状況を聴取し、その時点で活用に不安等がある施設について、作業療法士による現場訪問を行った。
- 現場訪問では、実際に現場でリフトを活用している職員と一緒に、対象者と機器等のマッチング、機器等の操作・活用方法、介護手順等について確認し指導を行っており、その結果、施設側でリフト機種やスリングシート、介助方法を見直したケースもあった。
- 施設からは、「移動用リフトのほか介護機器について知識を得る機会がほしい」「導入検討の期間を十分にとるとともに検討内容を充実させる必要がある」「操作研修等を継続して行ってほしい」といった声が挙げられている。
- 機器の導入に当たっては、施設での問題点・介護手順に係る現状分析を行った上で、対象者・機種等(特にスリングシート)の選定及び介護手順の見直しに併せ、操作し介助する職員への継続した指導が必要となる。
- これらの業務には、身体機能及び移動用リフト等の介護機器に関する専門的な知識を持ち合わせている職員が必要であるため、施設内の作業療法士や理学療法士、施設内に不在の場合には近隣地域の同職における役割が非常に重要である。

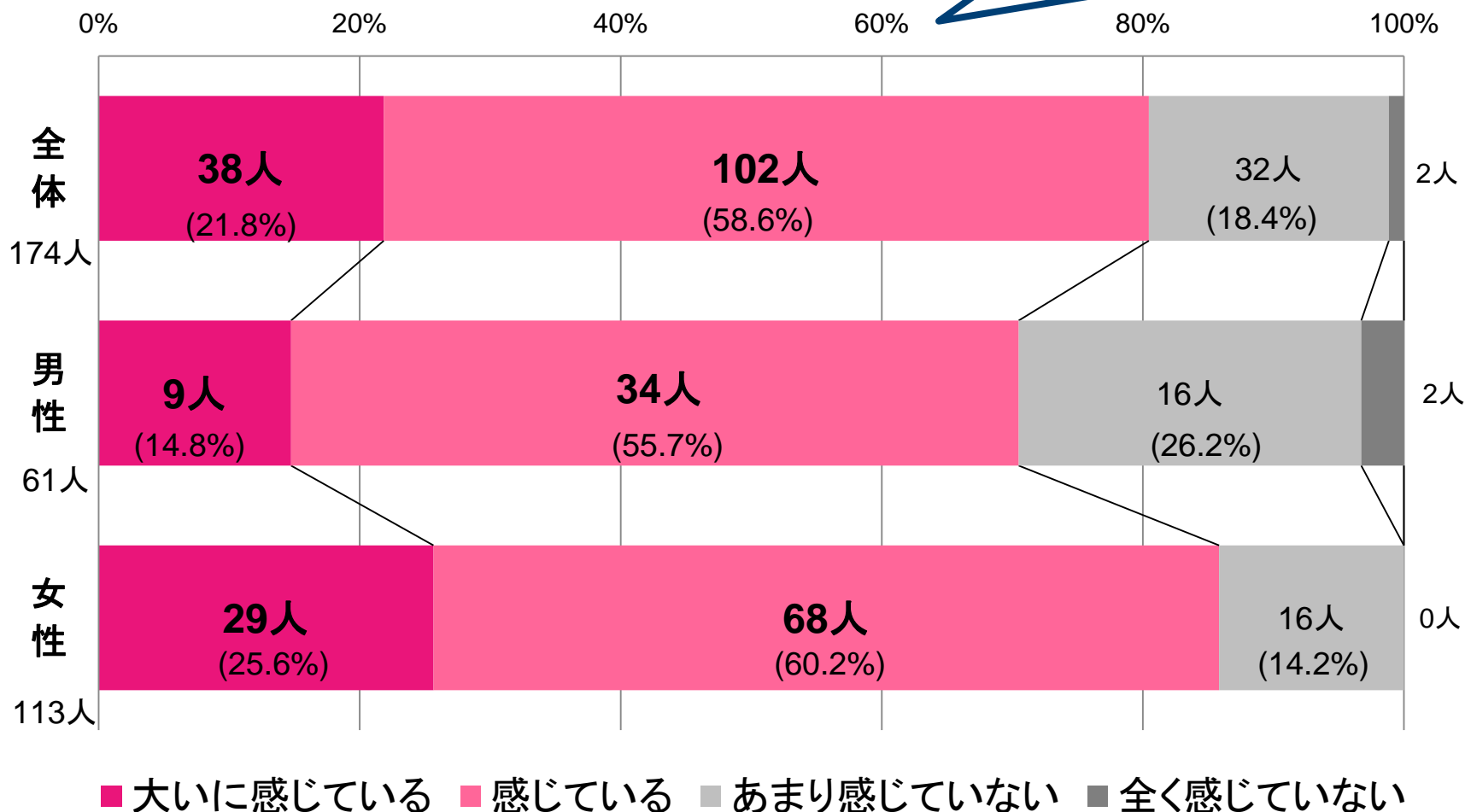
## 【結論及び今後の方針】

- 今後、介護保険施設等において介護機器の導入が進んでいくことが予想される。本県としても、本事業において明らかになった専門職員の関与の必要性、施設への機器等の周知機会設定の必要性等について今後の課題とし、関係機関と連携して施設における機器導入を促進し、介護職員の就業環境を改善するための支援を続けていく。

## 2(1) 職員検証結果(導入前の状況)

「大いに感じている」又は「感じている」職員  
 全体で 174人中140人 **80.4%**  
 特に女性では 113人中97人 **85.8%**  
 と高くなっている。

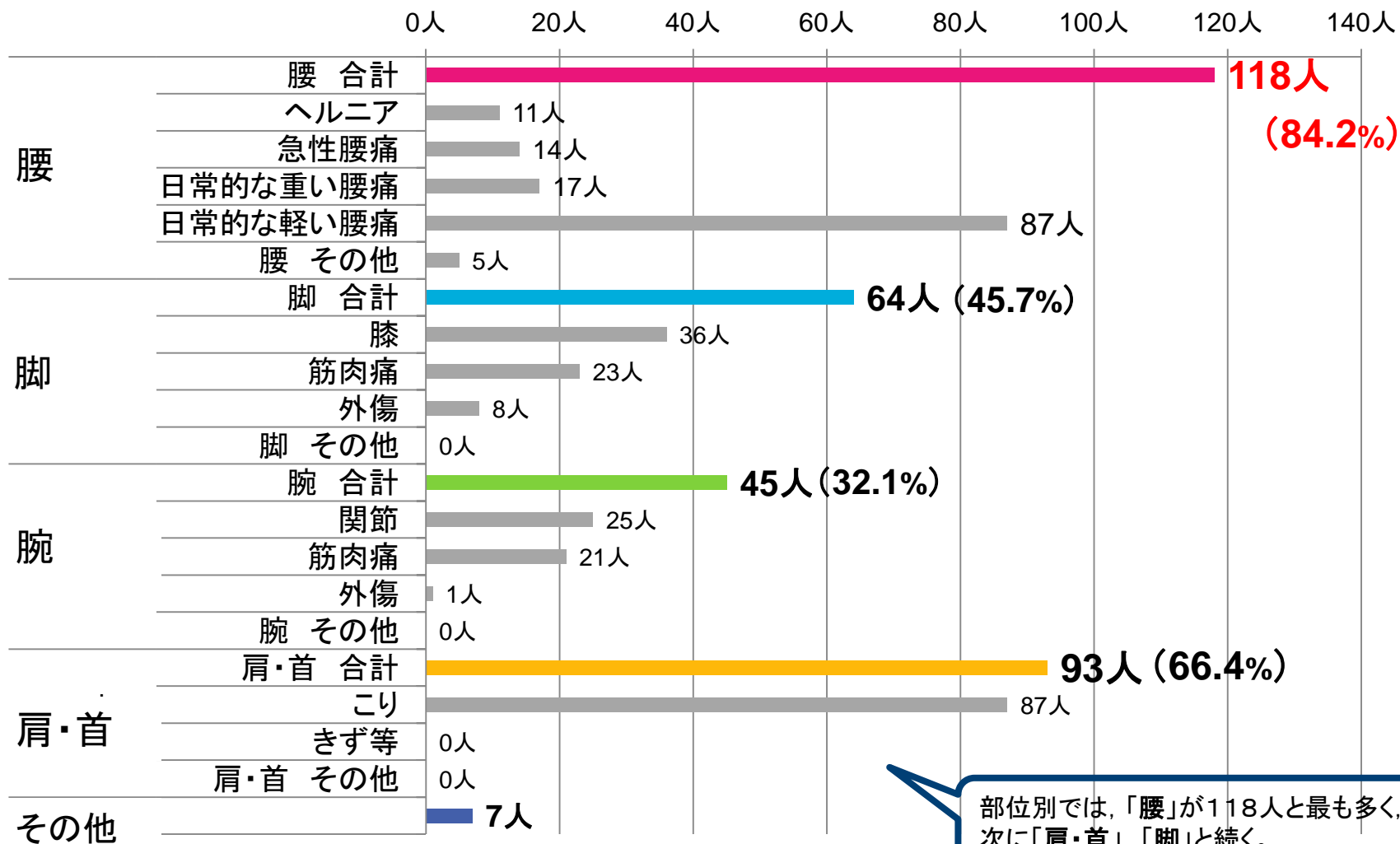
### ①a 身体的負担



## 2(1) 職員検証結果(導入前の状況)

①aで身体的負担を「大いに感じている」又は「感じている」140人(100%)の回答

### ①b 身体的負担 部位・症状別(複数回答)(症状未回答あり)



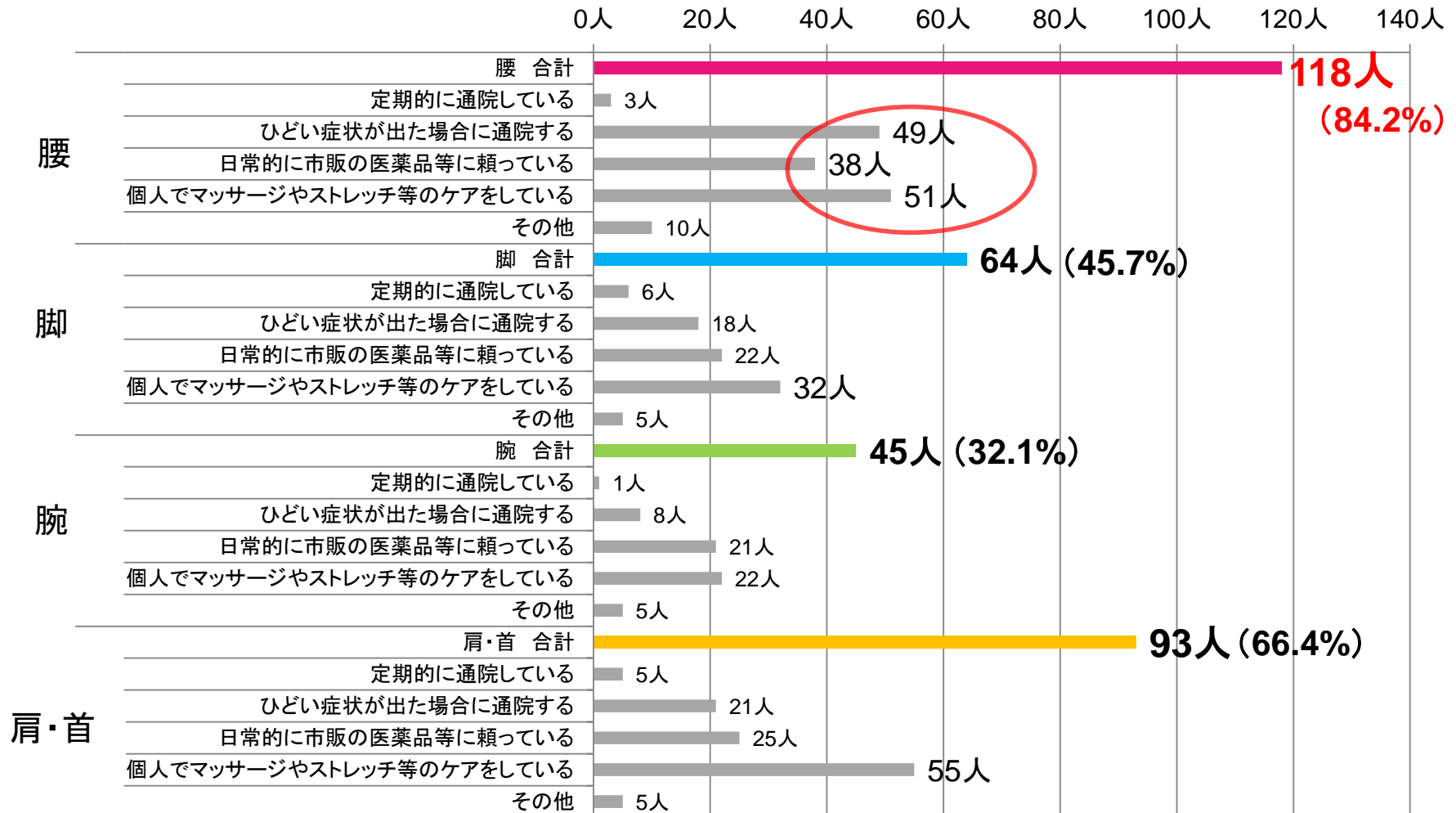
部位別では、「腰」が118人と最も多く、次に「肩・首」、「脚」と続く。



## 2(1) 職員検証結果(導入前の状況)

①aで身体的負担を「大いに感じている」又は「感じている」140人(100%)の回答

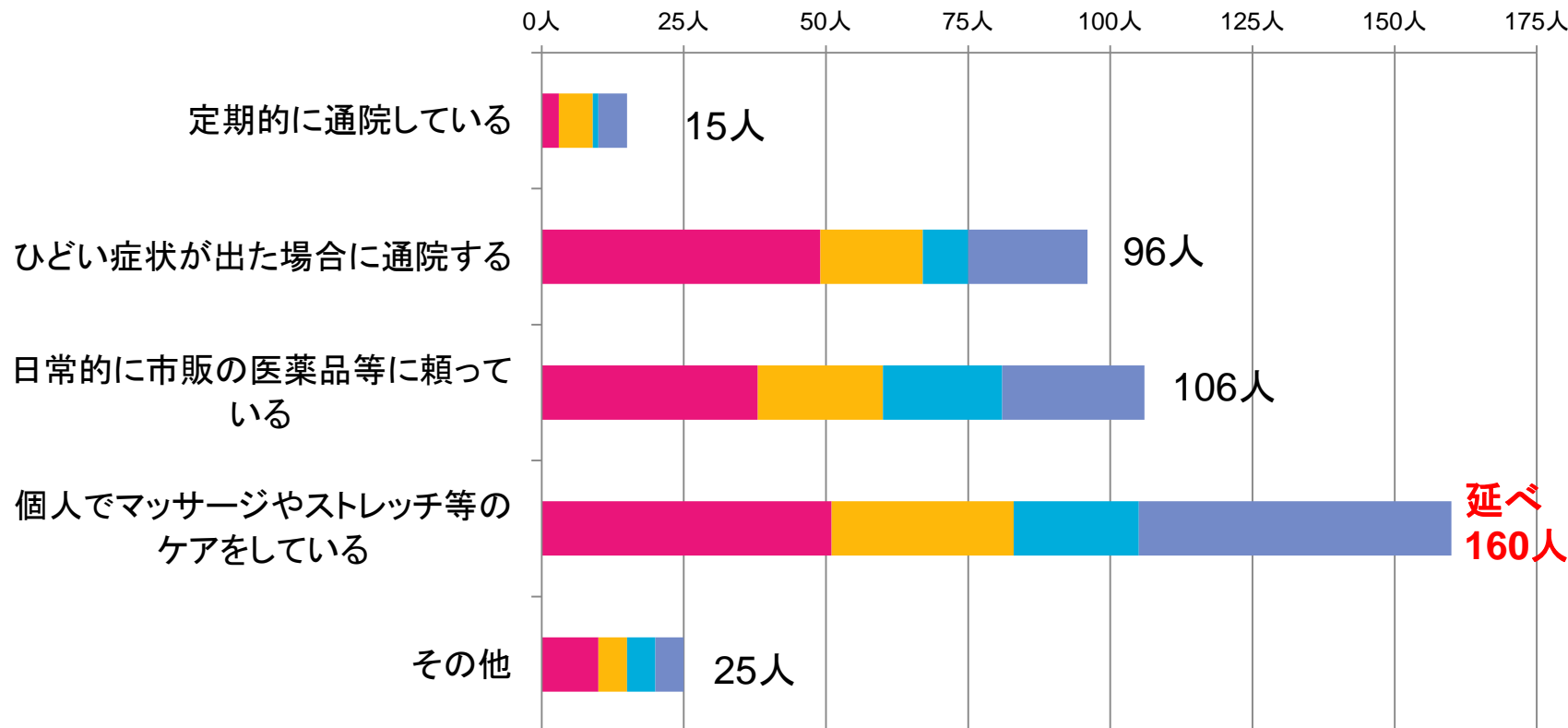
### ①c 身体的負担 部位・対処方法別(複数回答)(対処方法未回答あり)



## 2(1) 職員検証結果(導入前の状況)

### ①d 身体的負担 対処方法別(複数回答)

①aで身体的負担を「大いに感じている」  
又は「感じている」140人(100%)の  
回答の延べ人数

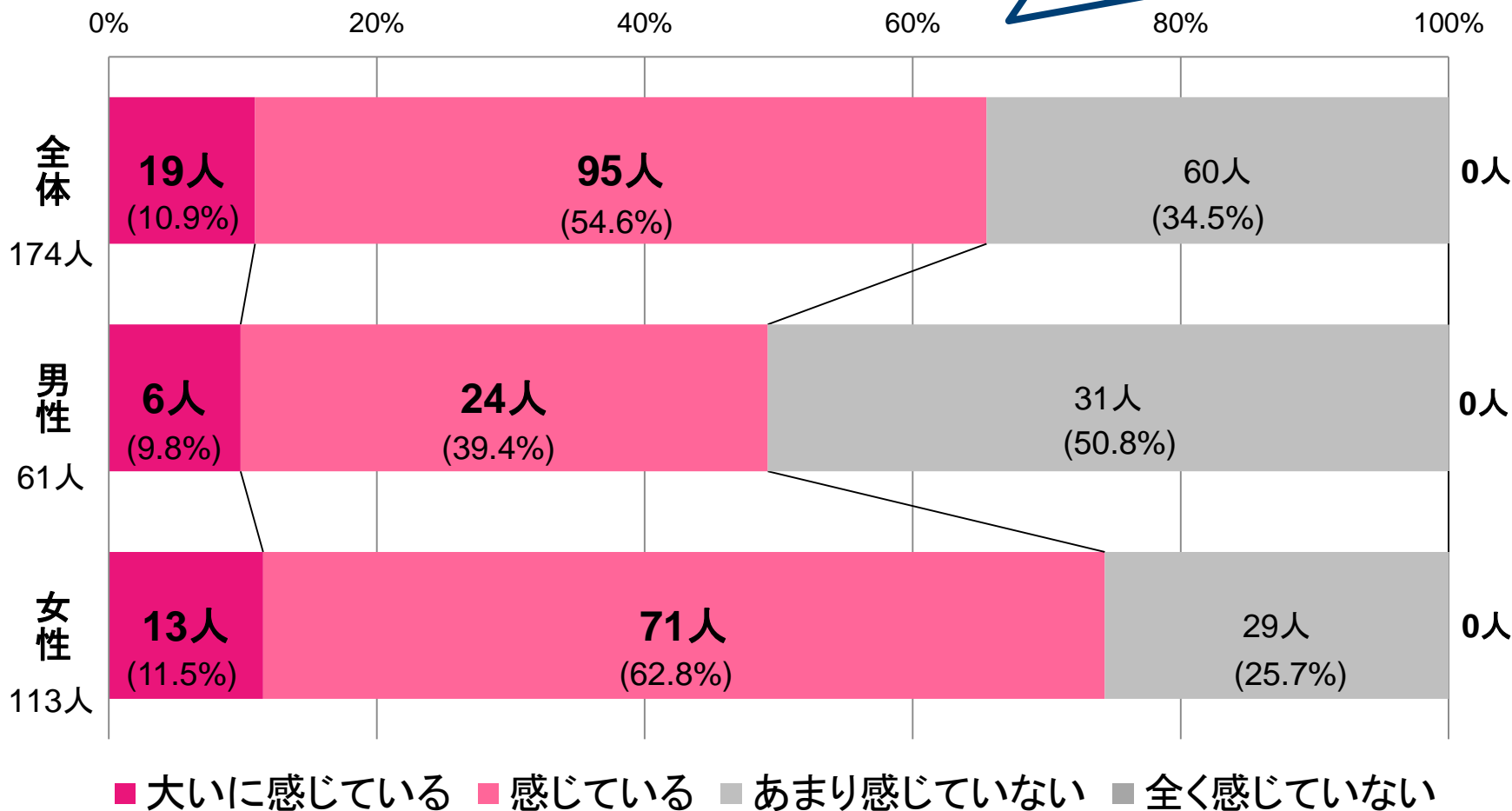


対処法では、「個人でマッサージやストレッチ等のケアをしている」が最も多い。現在通院等に至っていない職員でも、身体的な負担を感じており、個人で痛み等の緩和対策を行っていることがわかる。

■ 腰 ■ 脚 ■ 腕 ■ 肩首

## 2(1) 職員検証結果(導入前の状況)

### ②a 心理的負担

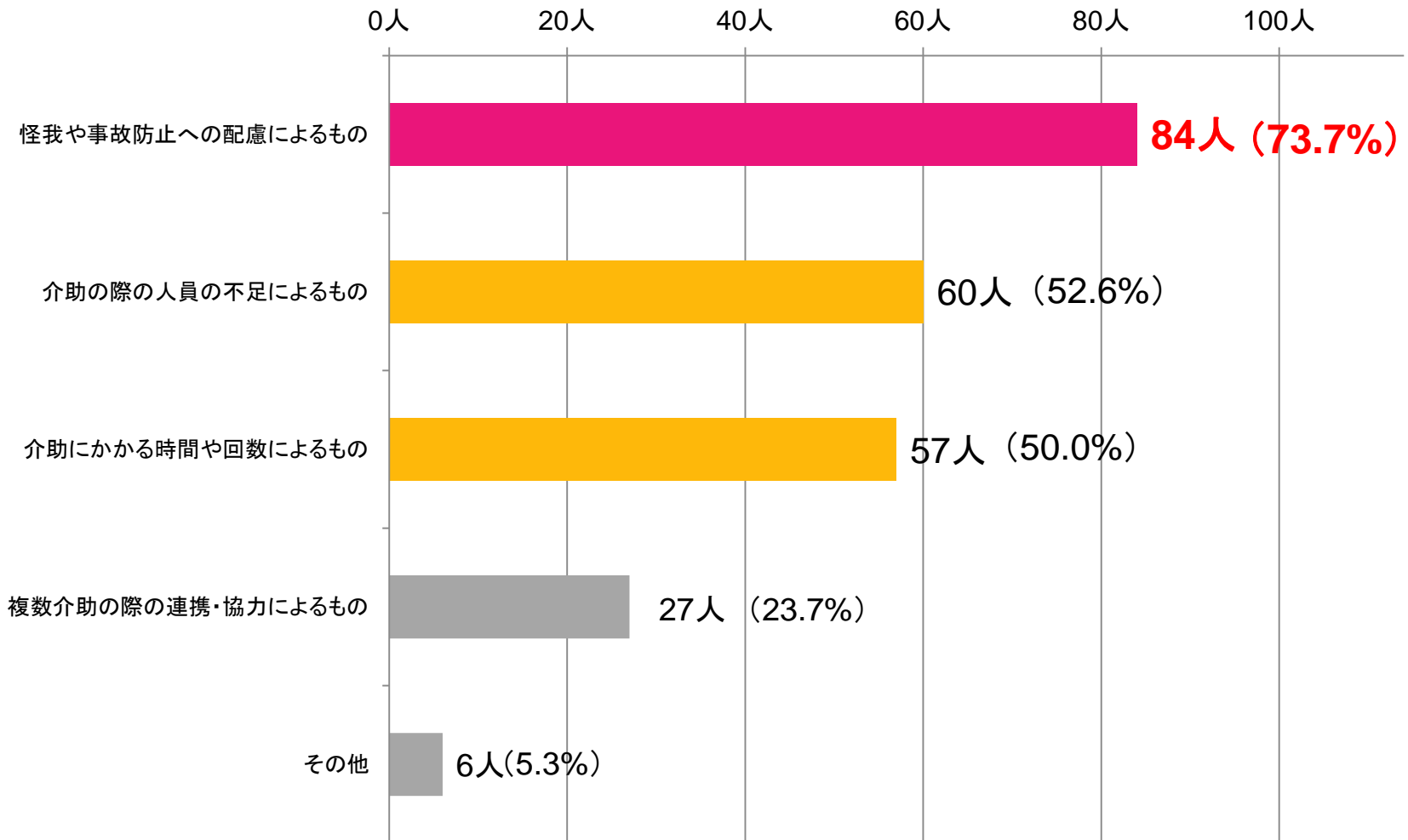


負担を「全く感じていない」職員 **0人, 0%**

## 2(1) 職員検証結果(導入前の状況)

②aで心理的負担を「大いに感じている」又は「感じている」114人(100%)の回答

### ②b 心理的負担 理由別(複数回答)

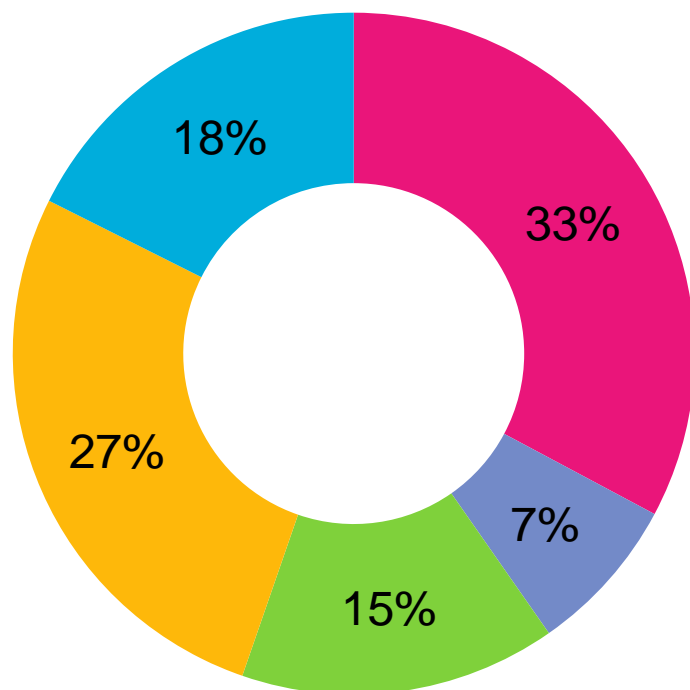


## 2(1) 職員検証結果(導入前の状況)

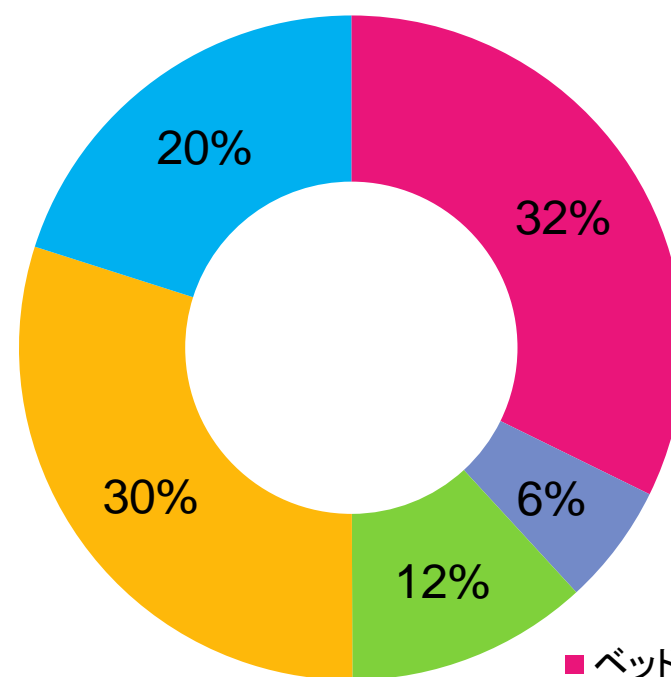
### ③ 負担を感じる移乗場面(上位3つまで複数回答)

身体的負担・心理的負担を感じる移乗場面はほぼ同じ。ベッド移乗と入浴時移乗において負担を感じている。

〈 身体的負担 〉



〈 心理的負担 〉



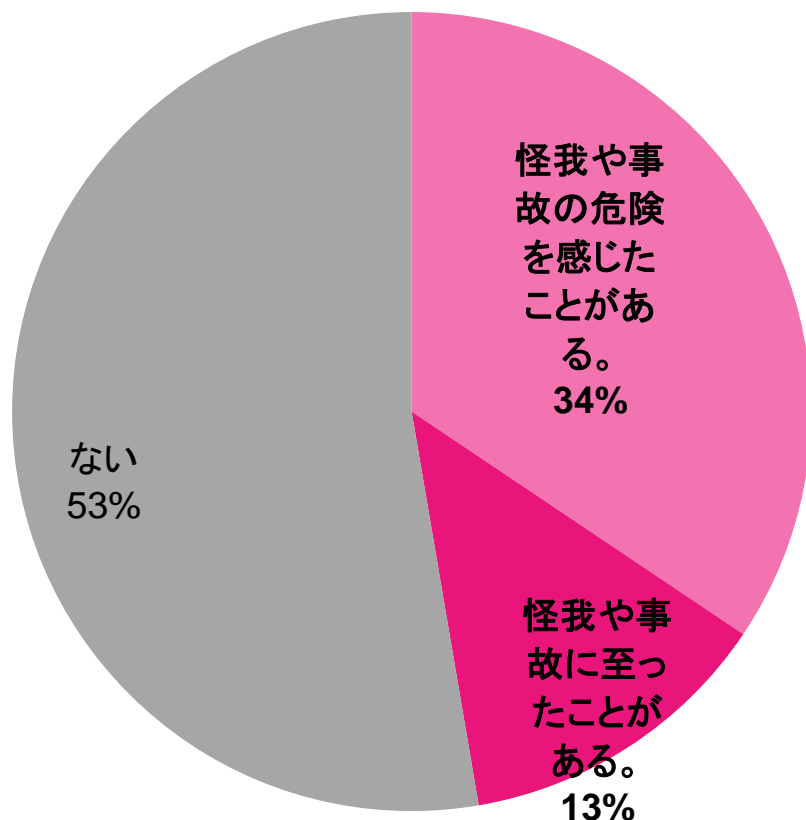
- ベッド⇔車椅子
- 車椅子⇔椅子
- 車椅子⇔床
- 入浴時
- 排泄時

負担割合(各項目の上位選択順に3点・2点・1点とし、総点数による割合を算出)によるもの。

## 2(1) 職員検証結果(導入前の状況)

### ④ 介護する側(介護職員)の 怪我や事故の危険性

(有効回答174人中)



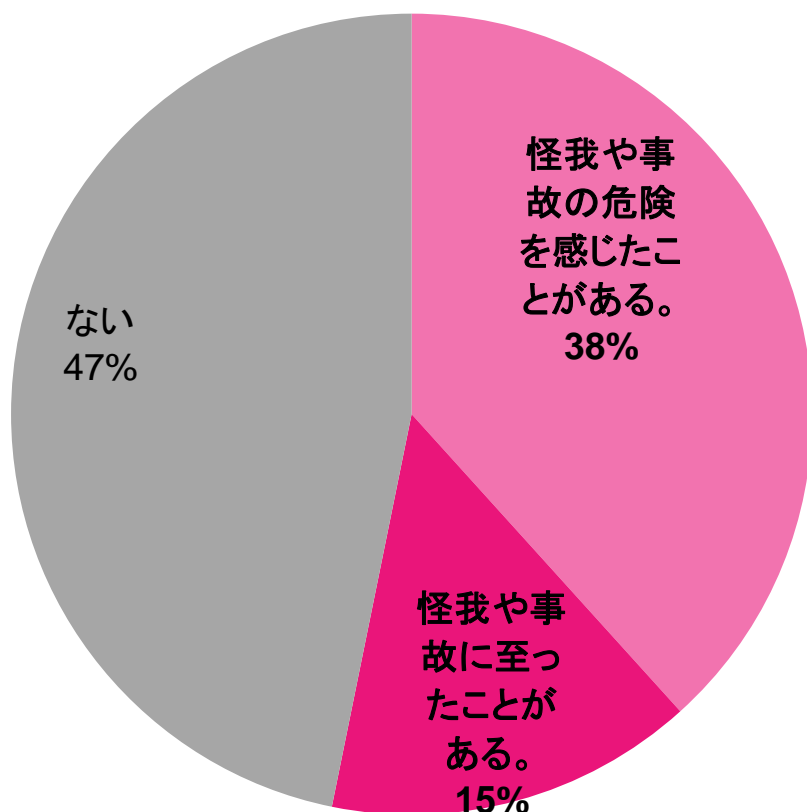
#### 【内容・原因】

- ・ 体格が大きい方を支えきれずバランスを崩し倒れる。
- ・ 中腰や無理な姿勢での移乗が続く。
- ・ 入浴時に手や足がすべり転倒する。
- ・ 職員が足りないため1人で無理に移乗することがある。
- ・ 移乗時に腰痛が発生。
- ・ 抱え上げ移乗時に入所者の抵抗を受けて叩かれたりひっかかれたりする。内出血やすり傷。
- ・ 移乗時に膝折れしたとき、咄嗟に支えるために負担がかかる。骨折等。
- ・ 足の表皮剥離。
- ・ 爪がはがれた。

## 2(1) 職員検証結果(導入前の状況)

### ⑤ 介護される側(入所者)の怪我や事故の危険性

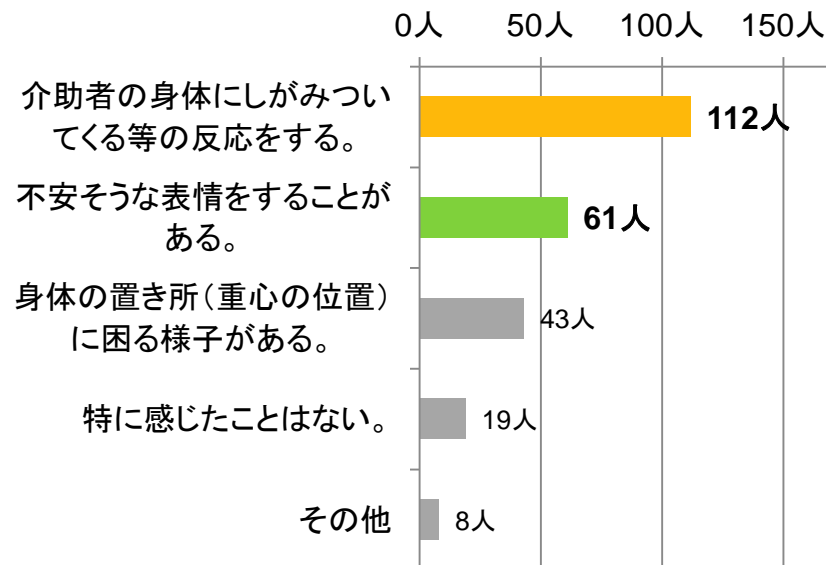
(有効回答174人中)



#### 【内容・原因】

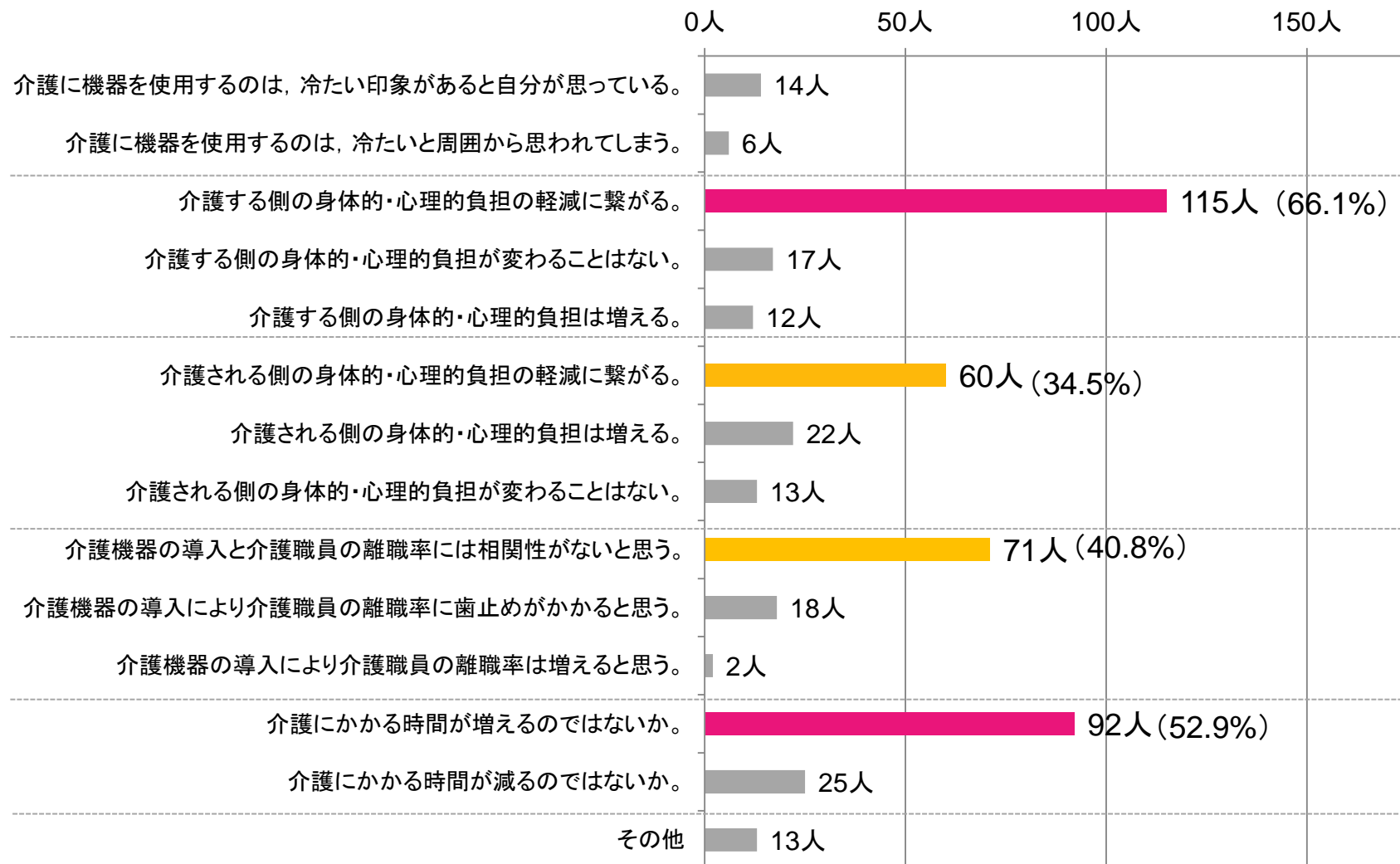
- ・手足の巻き込み。移乗の勢いによる裂傷。
- ・抵抗により転倒したり腕や脚をぶつける。
- ・体格が大きい入所者の移乗時に転倒したりバランスを崩す。
- ・車椅子のフットレスト等に脚をぶつけ表皮剥離。

#### 介護される側(入所者)の移乗時の様子



## 2(1) 職員検証結果(導入前の状況)

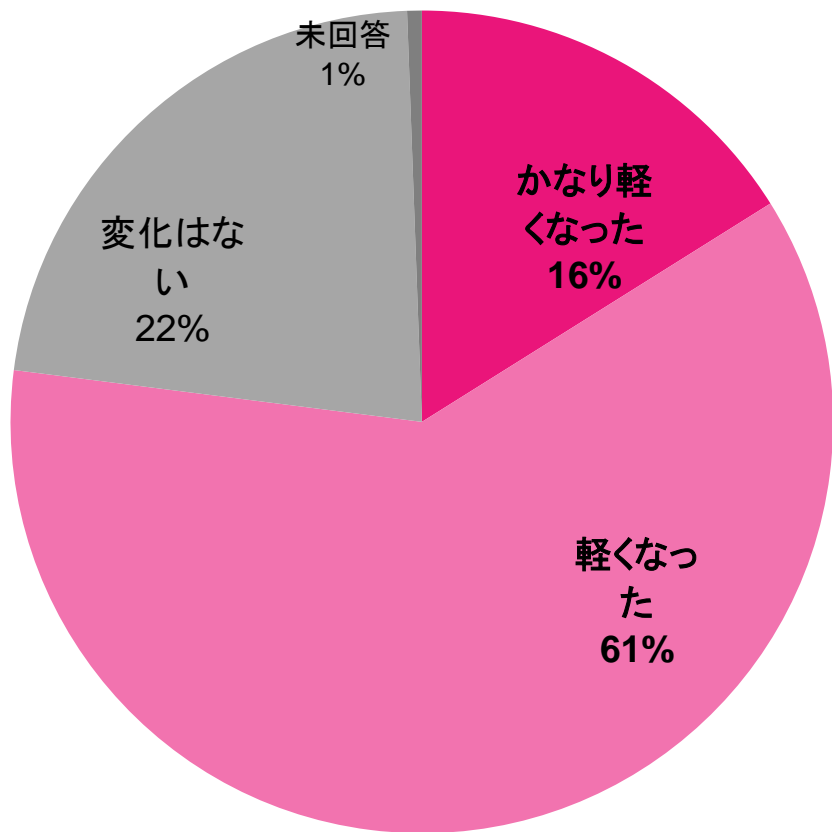
### ⑥ 介護機器に抱いているイメージ (複数回答)





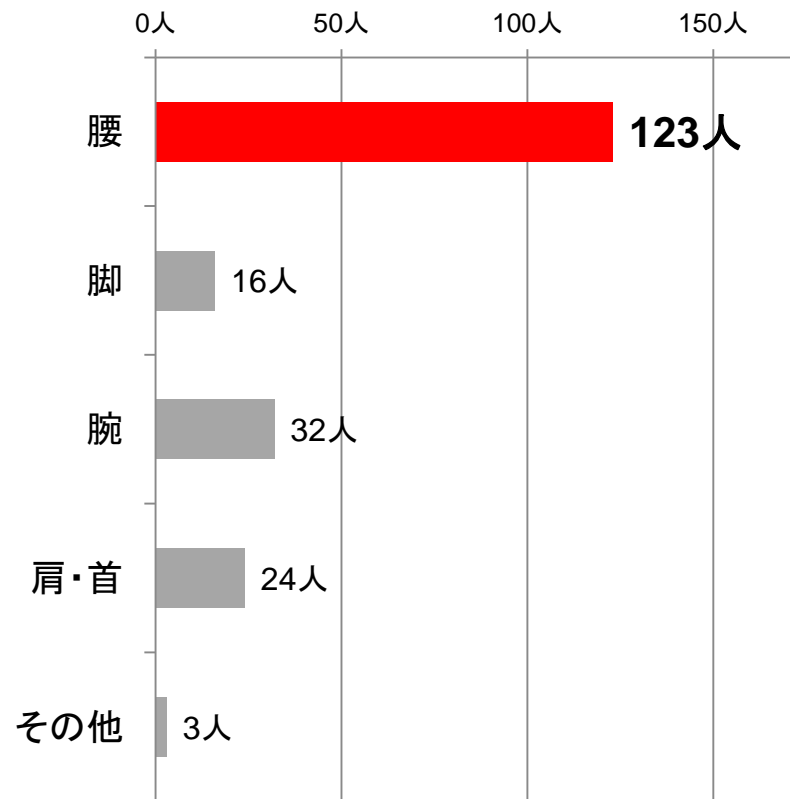
## 2(2) 職員検証結果(導入前後の効果比較)

### ① 導入後における身体的負担軽減の有無



- ・ 身体的負担が軽減した職員は **77%**
- ・ 軽減した部位は「**腰**」が突出して多い。

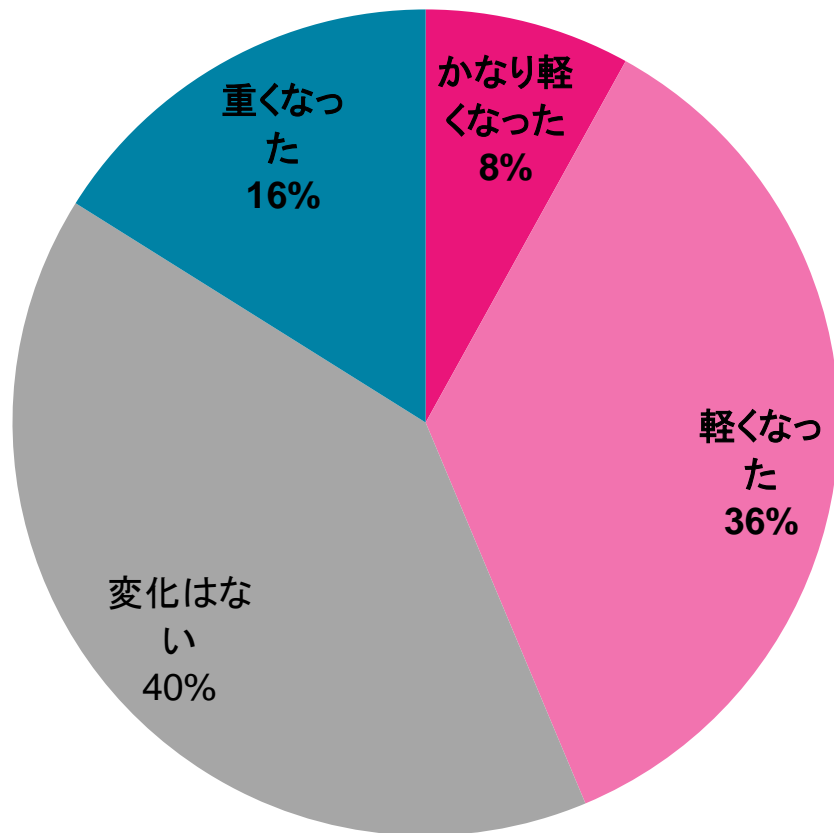
負担が軽減した部位(複数選択)



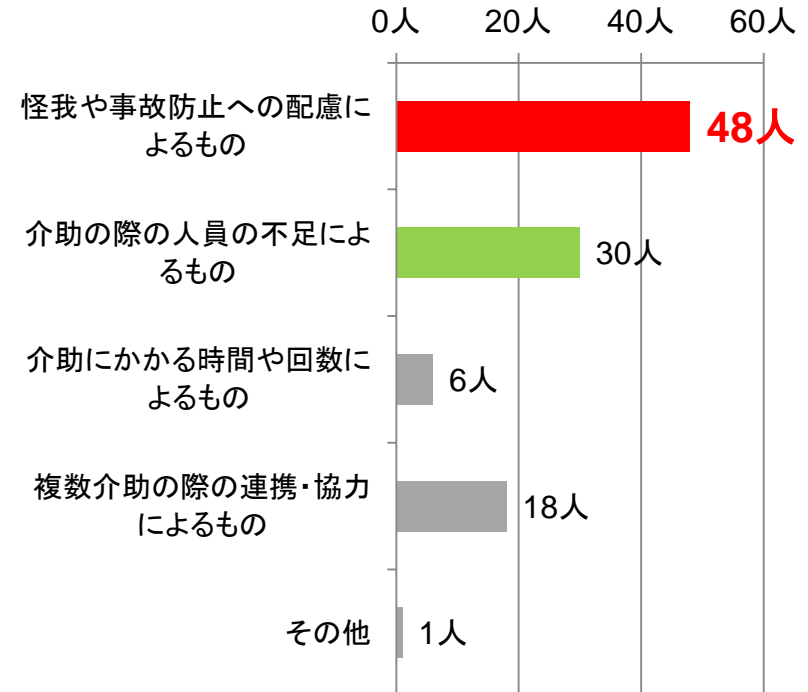
## 2(2) 職員検証結果(導入前後の効果比較)

### ② 導入後における心理的負担軽減の有無

- ・ 心理的負担が軽減した職員は **44%**
- ・ 軽減した内容は「怪我や事故防止への配慮によるもの」が最も多く、次に「人員の不足によるもの」となっている。



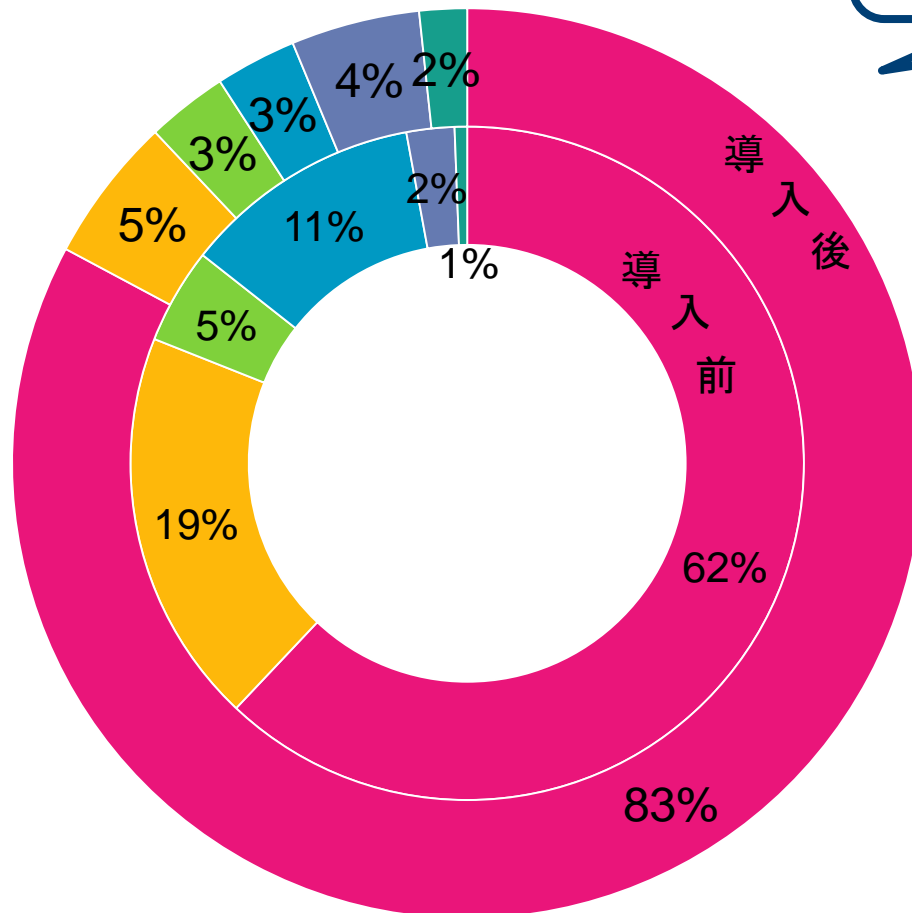
負担が軽減した内容(複数選択)



重くなった理由は「機器操作を覚える負担が増えた」「操作ミスをしないよう配慮した」等。

## 2(2) 職員検証結果(導入前後の効果比較)

### ③ 導入前後における介護手順の認識の変化



「施設内で入居者ごとの介護手順を決定し、おおむねその手順どおり行っている。」と回答した職員が、導入前と比較して導入後 **21%増**

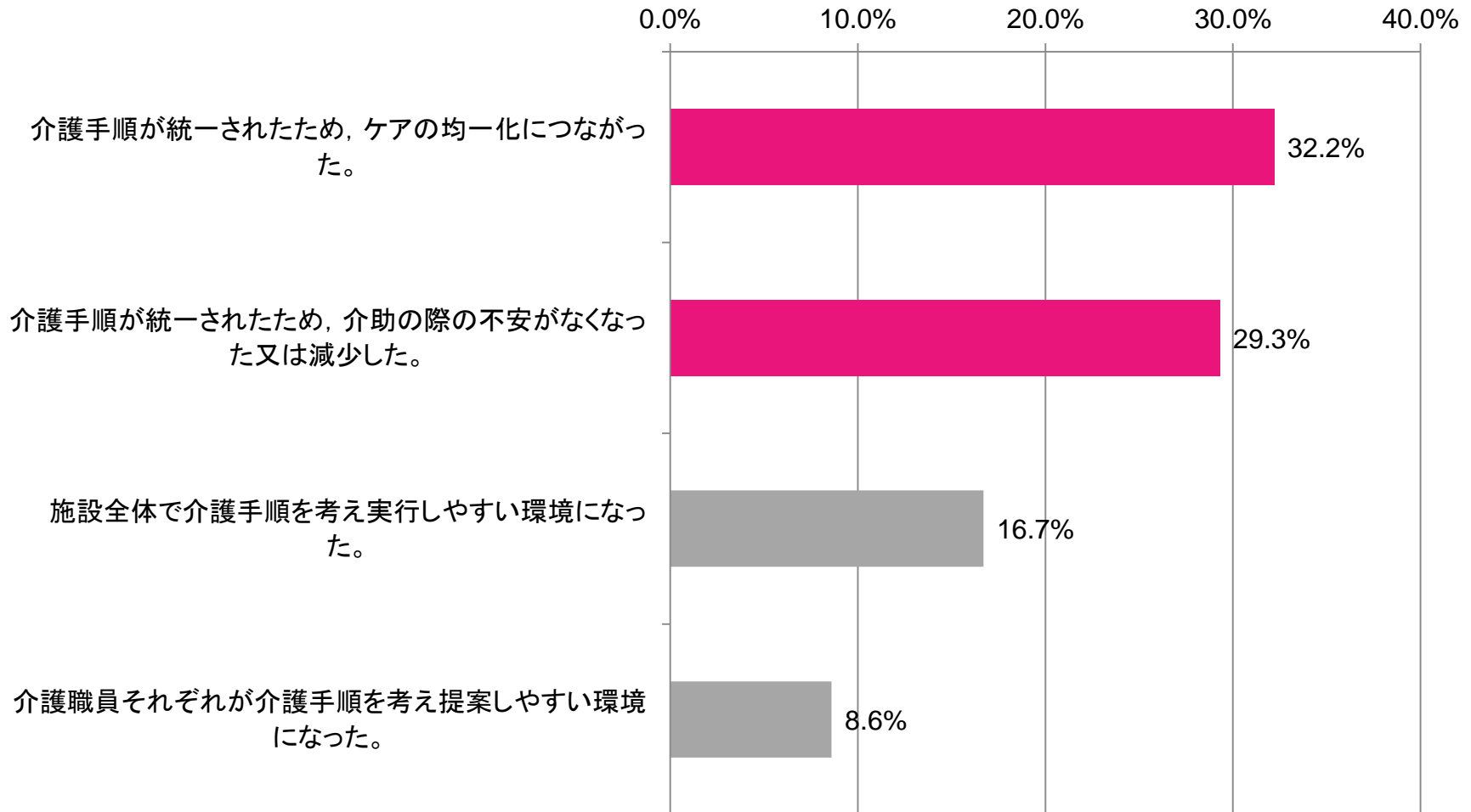
- 施設内で入居者ごとの介護手順を決定し、おおむねその手順どおり行なっている。
- 施設内で入居者ごとの介護手順を決定しているが、手順どおりに行っていない場合がある。
- 施設内で入居者ごとの介護手順を決定しているが、実際は手順どおりに行っていない又は行えていない。
- 施設内で入居者ごとの介護手順を決定していない。そのため、介護職員により異なっている状態である。
- 介護手順の決定等がどのようになっているか、わからない。
- その他

内周: 導入前 外周: 導入後

## 2(2) 職員検証結果(導入前後の効果比較)

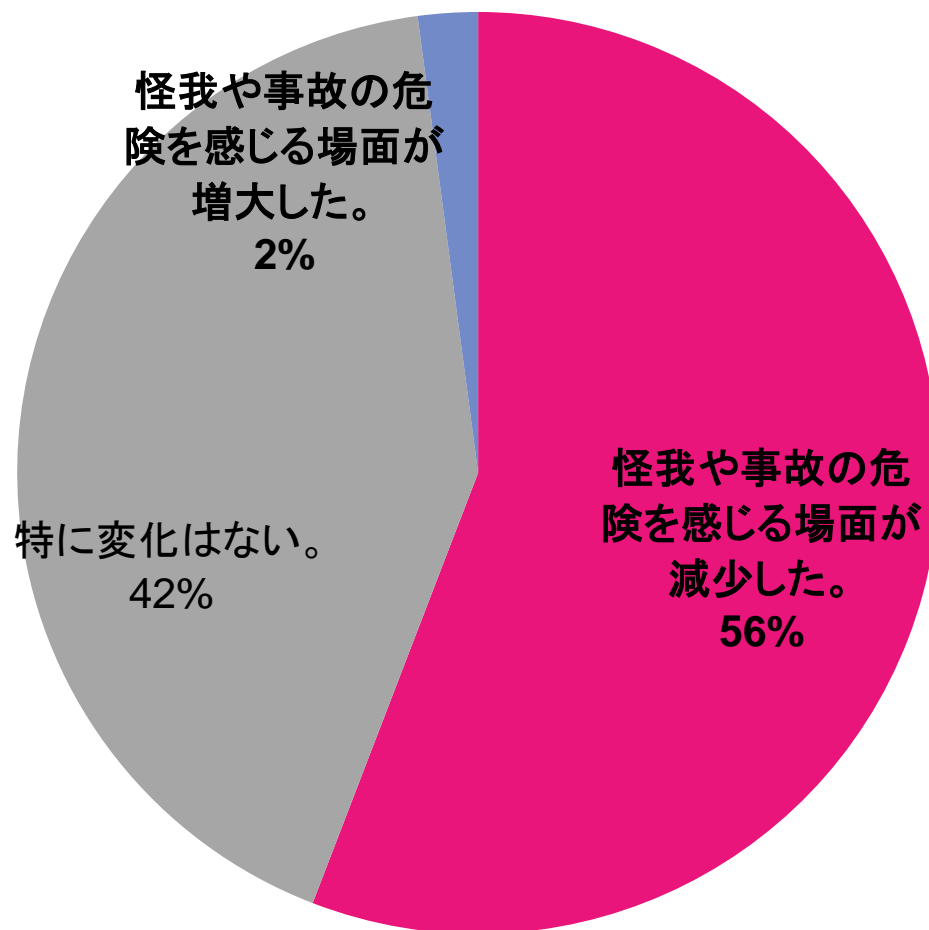
### ④ 導入後における介護手順・方法の変化 (複数回答)

「ケアの均一化」や「不安の減少」  
につながったとの回答が多い。



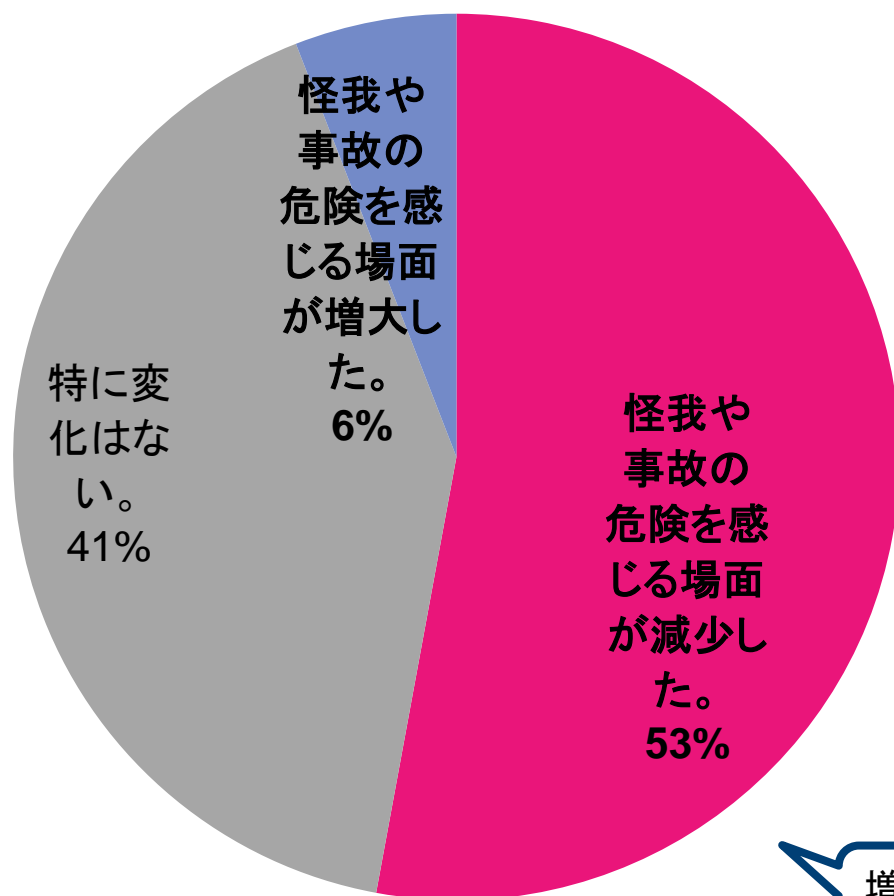
## 2(2) 職員検証結果(導入前後の効果比較)

### ⑤ 導入後の介護する側(職員)の 怪我や事故の危険性

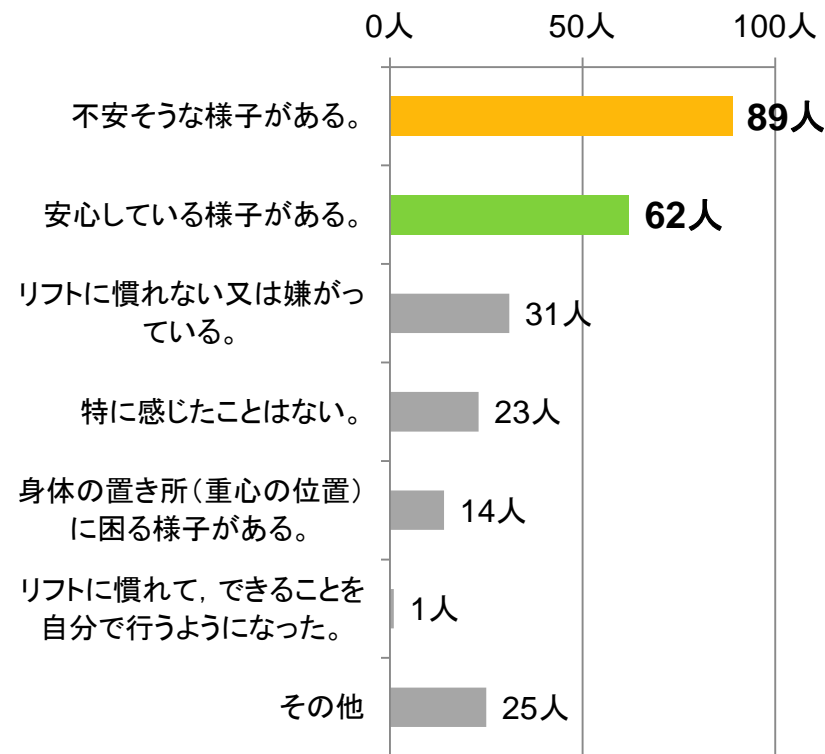


## 2(2) 職員検証結果(導入前後の効果比較)

### ⑥ 導入後の介護される側(入所者)の怪我や事故の危険性



#### 介護される側(入所者)の移乗時の様子



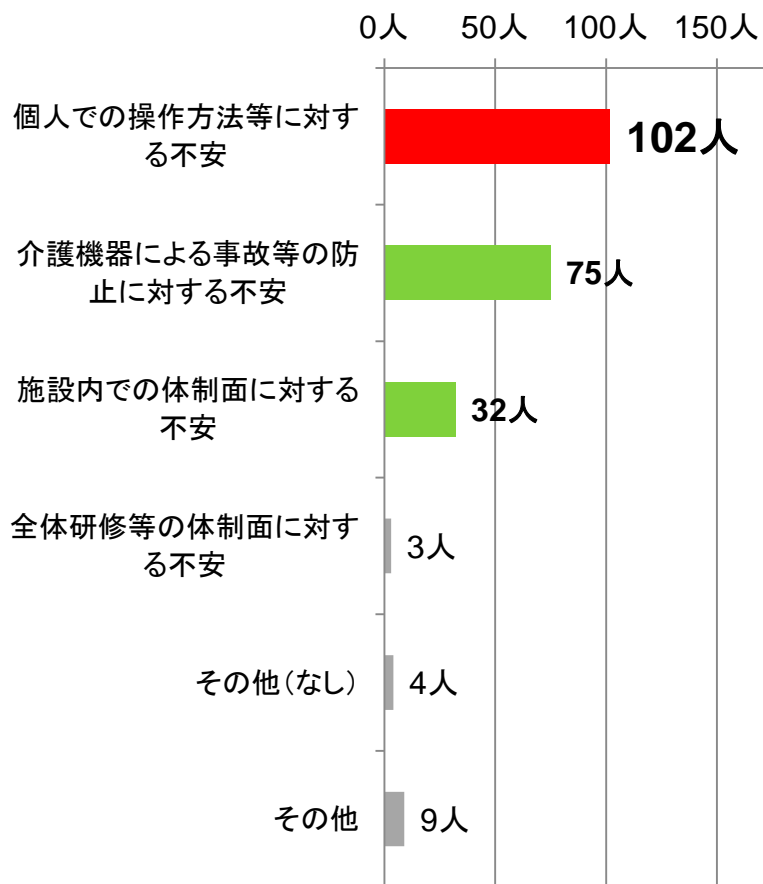
増大したとの回答は、人的な操作ミスや機器・シートの不適合・不具合の心配等の理由によるもの。

## 2(2) 職員検証結果(導入前後の効果比較)

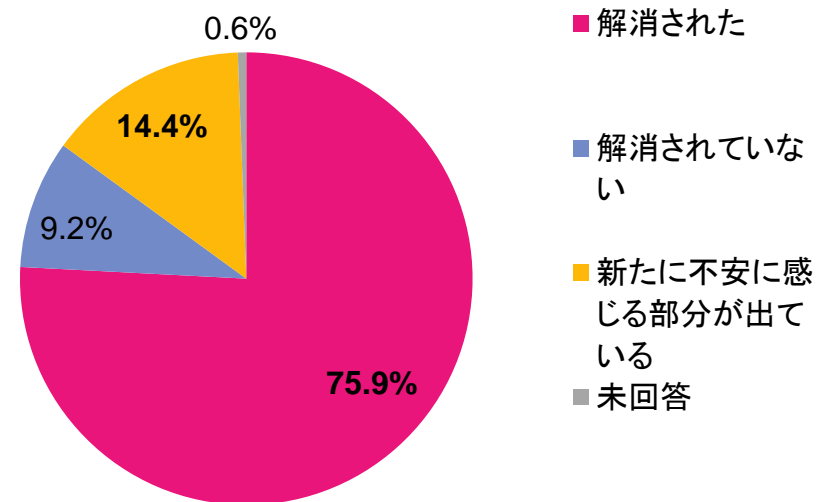
### ⑦ 導入に当たっての不安点

導入前に不安に感じていた内容は「個人での操作方法等に対する不安」が最も多い。導入後、不安が解消されたと回答した職員は75.9%

導入前に不安に感じていた内容



導入後の不安解消の有無

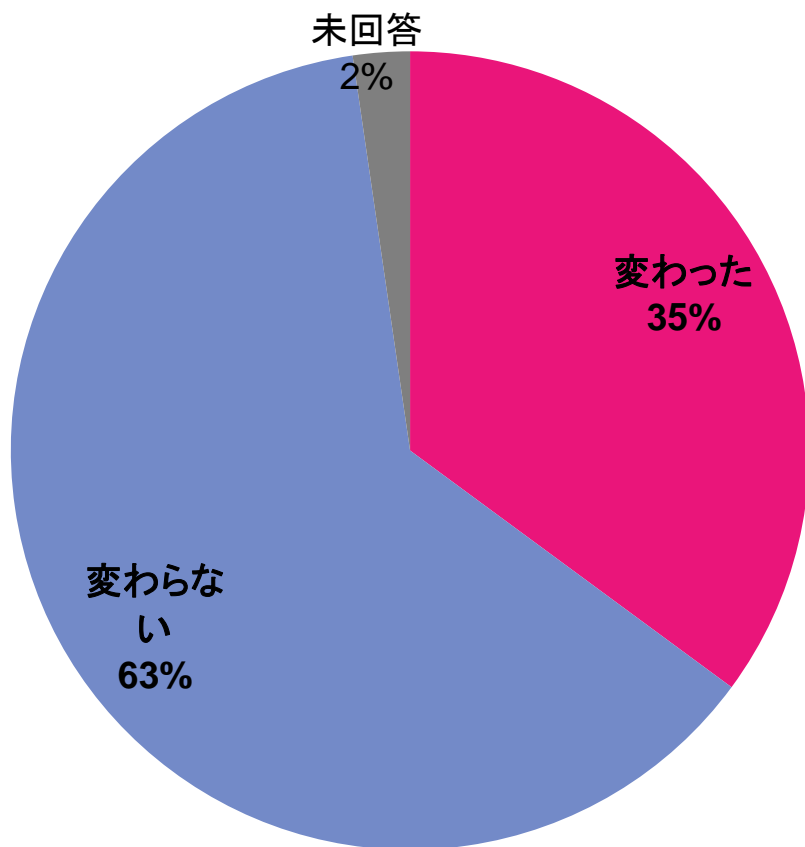


#### 【新たに生じている不安】

- ・ 時間がかかるため、他の入所者の見守り等の対応が心配。
- ・ 機器操作による事故の発生。
- ・ スリングシートが合っているか不安
- ・ リフトのリスクマネジメント管理が必要。
- ・ 操作が不安。定期的な研修会が必要。

## 2(2) 職員検証結果(導入前後の効果比較)

### ⑧ 介護現場への機器導入に抱いていたイメージの変化の有無



#### 【変わった(プラス)】

- ・ 装着と操作が難しいと思っていた。慣れれば簡単で、安全に移乗できる。
- ・ 面倒なイメージがあったが、手順が楽だった。
- ・ 思っていたよりも負担が軽くなった。
- ・ 手間よりも負担軽減の効果の方が大きい。
- ・ 入所者側の抵抗があると思っていたが、不安感なく受け入れているようだ。
- ・ 入所者側にも大きな効果があると実感した。
- ・ 冷たいイメージを持っていたが、入所者の安楽な様子を見て見方が変わった。

#### 【変わった(マイナス)】

- ・ 良いところと難しいところがあり一長一短。
- ・ 時間がかかってしまう。
- ・ 施設での使用が浸透しない。

#### 【意見】

- ・ もっと使いやすいものの開発を期待する。
- ・ コンパクトなものであると良かった。
- ・ もっとハイテクにならないものかと感じた。

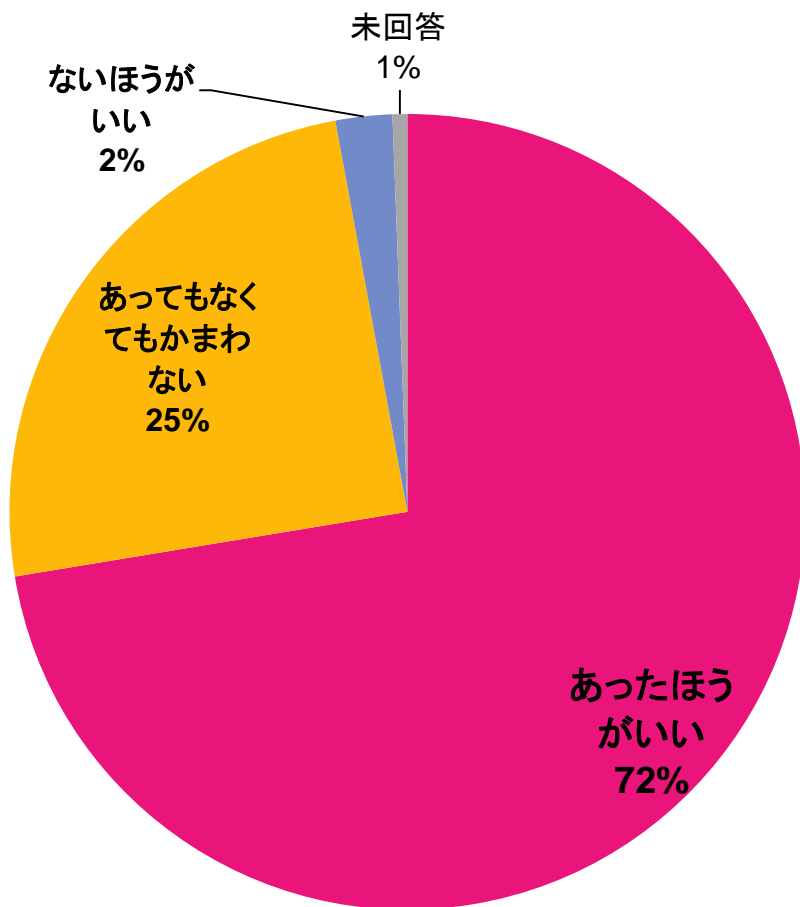
#### 【変わらない】

- ・ 思っていたとおりに時間がかかる。
- ・ 思っていたとおりに身体的負担が軽減された。



## 2(2) 職員検証結果(導入前後の効果比較)

### ⑨ 施設におけるリフトの導入の必要性



#### 【あつたほうがいい】

- ・ 入所者と職員の双方にとって安全。安心して移乗できる。
- ・ 操作方法は覚えれば簡単。
- ・ 全介助の方でも1人介助が可能。
- ・ 体格が小さいなど力がない職員，妊娠中の職員でも安全に移乗ができる。
- ・ 体格の大きい入所者，皮膚・骨に問題がある入所者に有効。積極的に活用したい。

#### 【あってもなくてもかまわない】

- ・ 時間がかかる。
- ・ 2人介助で早く安全にできる。
- ・ なくてもできる。
- ・ タオル移乗で問題ない。
- ・ 狭い場所で邪魔になっている。

#### 【ないほうがいい】

- ・ 使用するのが面倒。
- ・ 使用希望の入所者が少ない又はいない。

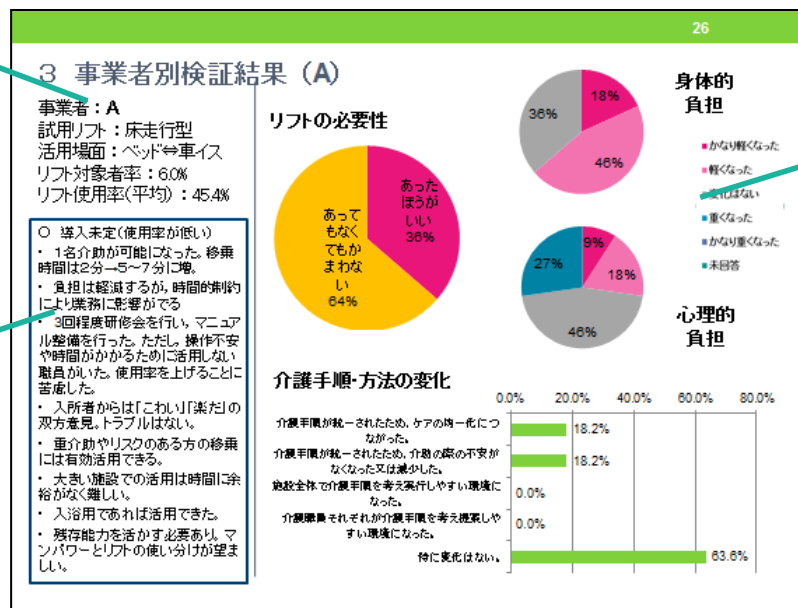
### 3 事業者別検証結果(参考:ページの見方)

#### 【左上】

事業者別(A~H)に、試用リフトのタイプと活用した移乗場面を記載しています。  
『リフト対象者率』 = 施設総定員のうち、何名の入所者をリフトの対象者としたかの割合です。  
『リフト使用率(平均)』 = リフト対象者の移乗介助時にどの程度活用したか、職員による使用率の平均値です。

#### 【左下】

事業者からの「事業評価票」を基に、施設におけるの活用状況、工夫した点・苦慮した点などを簡単に記載しています。また、今後リフトの活用を検討する際の参考になるコメントも記載しています。



#### 【右側】

事業者ごとに職員からのチェックシートによる導入前後の効果をグラフ化しています。事業者ごとに異なる傾向となっています。

### 3 事業者別検証結果 (A)

事業者：A

試用リフト：床走行型

活用場面：ベッド⇔車イス

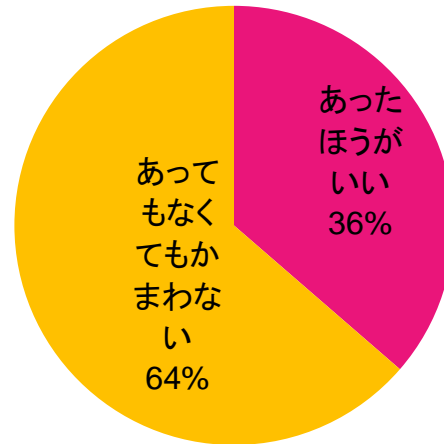
リフト対象者率：6.0%

リフト使用率(平均)：45.4%

○ 導入未定(使用率が低い)

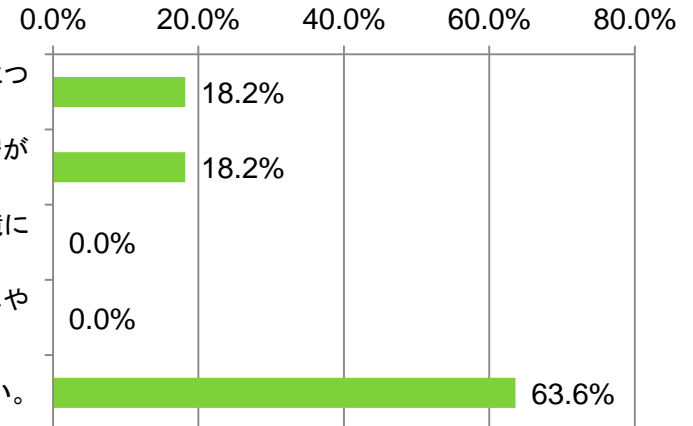
- ・ 1名介助が可能になった。移乗時間は2分→5～7分に増。
- ・ 負担は軽減するが、時間的制約により業務に影響がでる
- ・ 3回程度研修会を行い、マニュアル整備を行った。ただし、操作不安や時間がかかるために活用しない職員がいた。使用率を上げることに苦慮した。
- ・ 入所者からは「こわい」「楽だ」の双方意見。トラブルはない。
- ・ 重介助やリスクのある方の移乗には有効活用できる。
- ・ 大きい施設での活用は時間に余裕がなく難しい。
- ・ 入浴用であれば活用できた。
- ・ 残存能力を活かす必要あり。マンパワーとリフトの使い分けが望ましい。

#### リフトの必要性

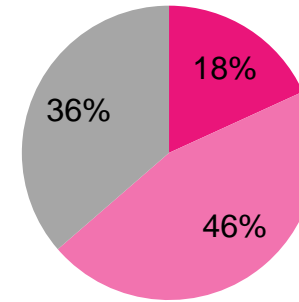


#### 介護手順・方法の変化

- 介護手順が統一されたため、ケアの均一化につながった。
- 介護手順が統一されたため、介助の際の不安がなくなった又は減少した。
- 施設全体で介護手順を考え実行しやすい環境になった。
- 介護職員それぞれが介護手順を考え提案しやすい環境になった。
- 特に変化はない。



#### 身体的負担



- かなり軽くなった
- 軽くなった
- 変化はない
- 重くなった
- かなり重くなった
- 未回答

#### 心理的負担

### 3 事業者別検証結果 (B)

事業者：B

試用リフト：据置型

活用場面：ベッド⇔車イス

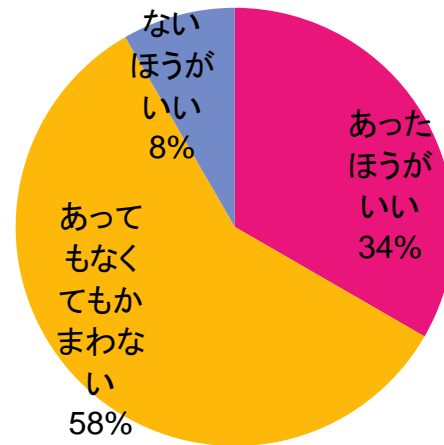
リフト対象者率：10.0%

リフト使用率(平均)：38.3%

○ 導入未定(意見が二分)

- ・ 1名介助が可能になり、手薄な時間帯に有効。移乗時間は2～3分→3～5分に増。ただし別の1名が他の対応が可能。
- ・ 身体的負担は軽くなったが、心理的負担が重くなったと感じている職員が多い。
- ・ 操作が不安な職員と必要性を感じない職員は使用しない。使用の定着を働きかけた。
- ・ 利用者からの反応は少ないが、やや怖いと感じている方がいた。
- ・ スリングシートを選定、皮膚トラブルの対応について検討が必要。
- ・ リフトの知識がある職員による対応と判断が必要。
- ・ リフトが必要な入所者全てに使用できれば定着するのでは。
- ・ 居室据置き型のリフトは圧迫感がある。デザイン改良希望。

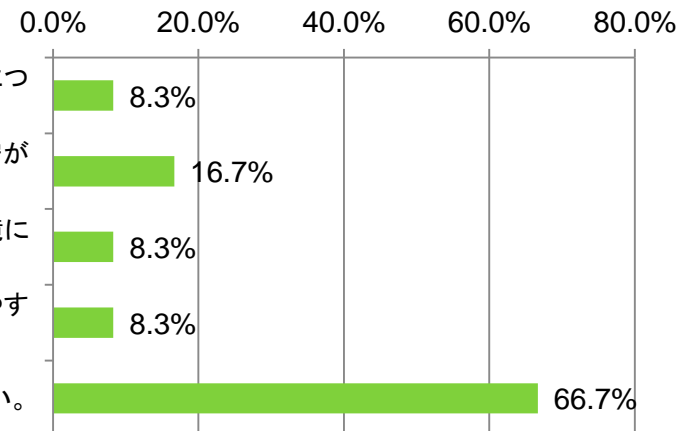
#### リフトの必要性



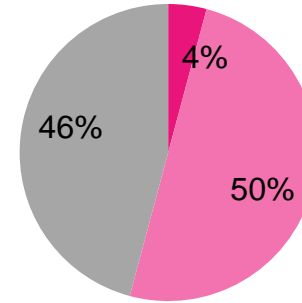
#### 介護手順・方法の変化

- 介護手順が統一されたため、ケアの均一化につながった。
- 介護手順が統一されたため、介助の際の不安がなくなった又は減少した。
- 施設全体で介護手順を考え実行しやすい環境になった。
- 介護職員それぞれが介護手順を考え提案しやすい環境になった。

特に変化はない。

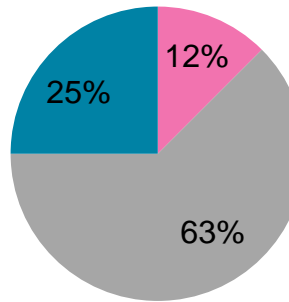


#### 身体的負担



- かなり軽くなった
- 軽くなった
- 変化はない
- 重くなった
- かなり重くなった
- 未回答

#### 心理的負担



### 3 事業者別検証結果 (C)

事業者：C

試用リフト：床走行型

活用場面：ベッド⇔車イス

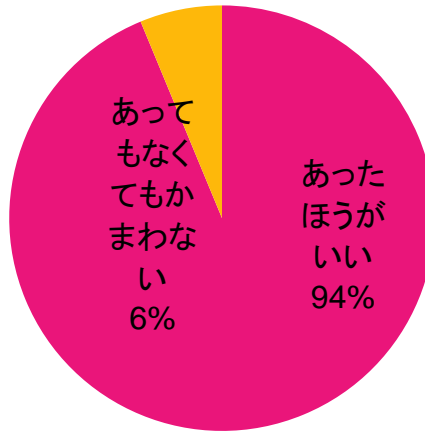
リフト対象者率：17.2%

リフト使用率(平均)：100.0%

○ 導入準備中(別機種)

- ・ 1人介助可能なため、別職員が他の業務が可能。
- ・ 準備に3分程度。ただし、介助相手を探す手間がなく、ユニット業務は効率化。操作に慣れることで時間も短縮。
- ・ 腰の負担が減った。女性(妊婦)や高齢職員など1人で介助が可。
- ・ 腰の負担減。事故の心配減。入所者への配慮もでき心に余裕ができた。移乗時の内出血・表皮剥離の事故がなくなった。
- ・ 入所者からは、移乗時の苦痛な表情がなくなり、不安の声も聞かれなくなった。
- ・ 研修はユニットと全体で2回開催した。職員が迷いなく使用できた。
- ・ 利点欠点の確認と適切な機種選定のためにも、本格的な導入前に検討する期間が必要。

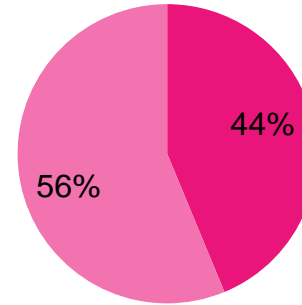
#### リフトの必要性



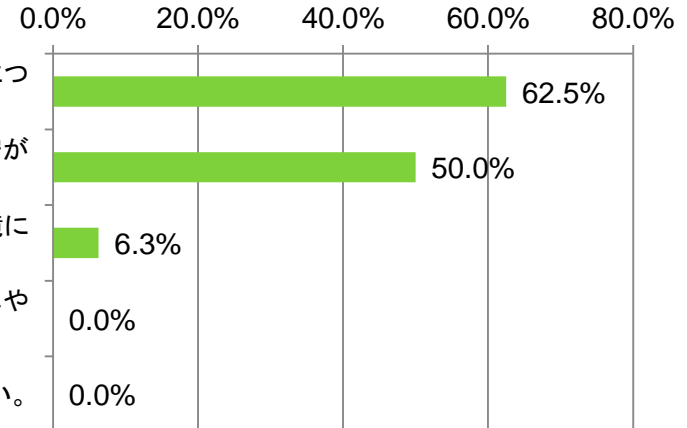
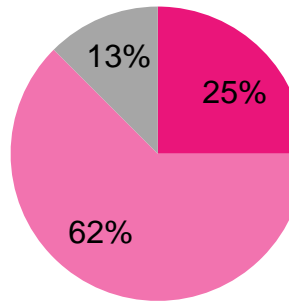
#### 介護手順・方法の変化

- 介護手順が統一されたため、ケアの均一化につながった。 62.5%
- 介護手順が統一されたため、介助の際の不安がなくなった又は減少した。 50.0%
- 施設全体で介護手順を考え実行しやすい環境になった。 6.3%
- 介護職員それぞれが介護手順を考え提案しやすい環境になった。 0.0%
- 特に変化はない。 0.0%

#### 身体的負担



#### 心理的負担



### 3 事業者別検証結果 (D)

事業者：D

試用リフト：床走行・据置型

活用場面：ベッド・入浴時

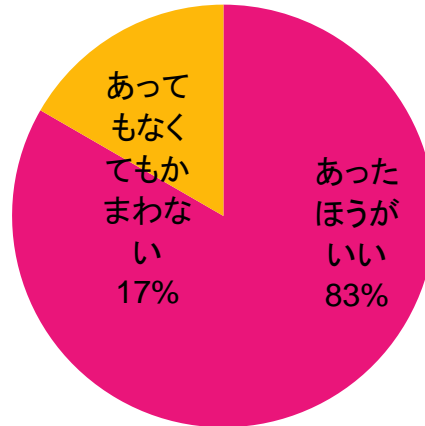
リフト対象者率：11.3%

使用率(平均)：32.9%・86.3%

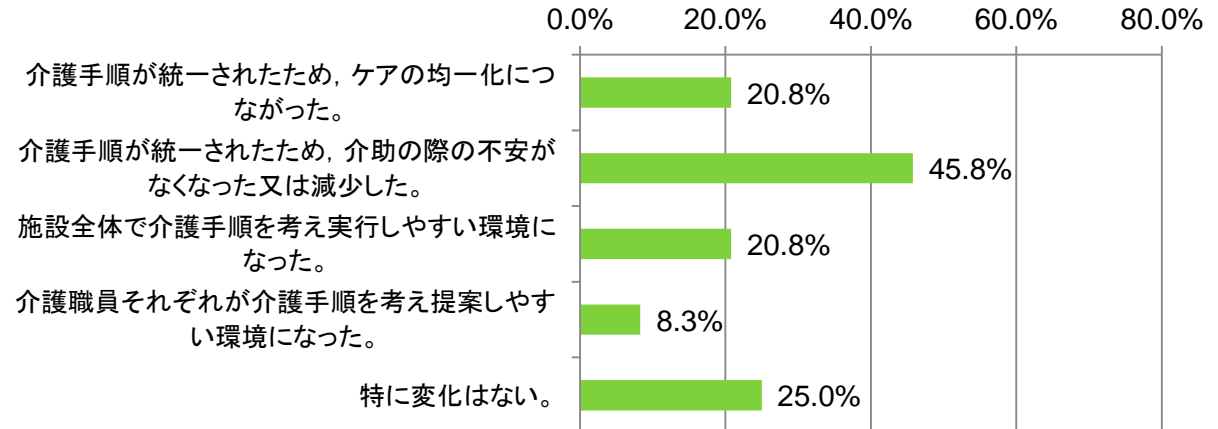
○ 導入準備中(入浴時用)

- ・ 抱きかかえ減のため負担減。操作に慣れて心理的負担も減。
- ・ 女性のみに移乗可。介助相手に気を遣う負担がなくなった。
- ・ 移乗時間は増。体格がよくロールボード使用時に3～4名介助だった方も2人移乗に。
- ・ 入所者でロールボードの勢いに怖がっていた方の恐怖感が、リフトではやわらいでいる様子。
- ・ 入浴用シート(ナイロン製を選択)に痛みを訴える方がいた。
- ・ 入浴時リフトの効果が大きい。
- ・ 居室スペースが狭い場合は、床走行・据置きは要検討。
- ・ スリングシートの選定、敷き込みに不安あり。指導がほしい。
- ・ 施設内研修は複数回行い、使用しながらの説明が効果有。

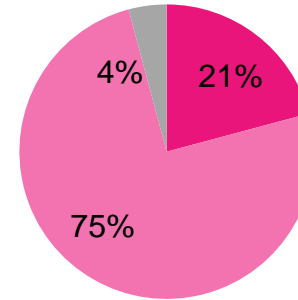
#### リフトの必要性



#### 介護手順・方法の変化

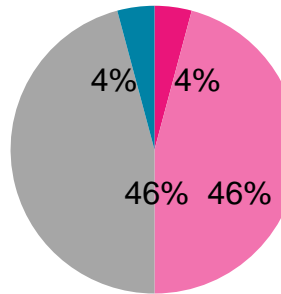


#### 身体的負担



- かなり軽くなった
- 軽くなった
- 変化はない
- 重くなった
- かなり重くなった
- 未回答

#### 心理的負担



### 3 事業者別検証結果 (E)

事業者：E

試用リフト：床走行型

活用場面：ベッド⇔車イス

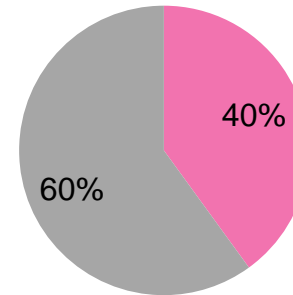
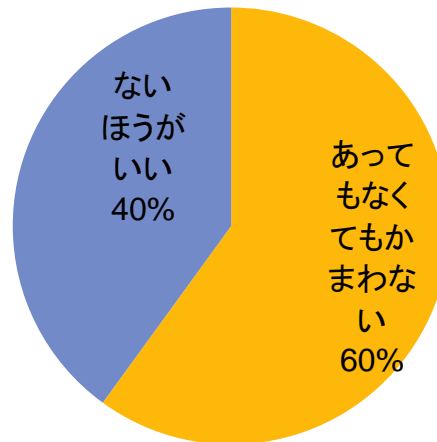
リフト対象者率：27.6%

リフト使用率(平均)：60.0%

○ 導入未定(意見が二分)

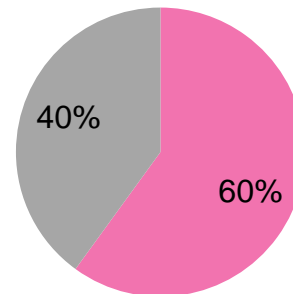
- ・ 身体的負担は軽減。
- ・ 不安や心配が軽減。入所者の身体状態に関係なく安全・安心した移乗介助が可能。
- ・ 施設スペースが狭いため、利用しない入所者にとって障害に。
- ・ 1人介助も可能。
- ・ 自宅で使用していた入所者からは良い感想。初めての方は恐怖感があるため人による介助希望の意見もあった。
- ・ スタッフへの説明は実施できたが、実践する機会が少なかった。慣れるまで2人体制で1動作ごとに確認しながら操作した。
- ・ リフトの知識不足。施設に適したものを選択したい。

#### リフトの必要性



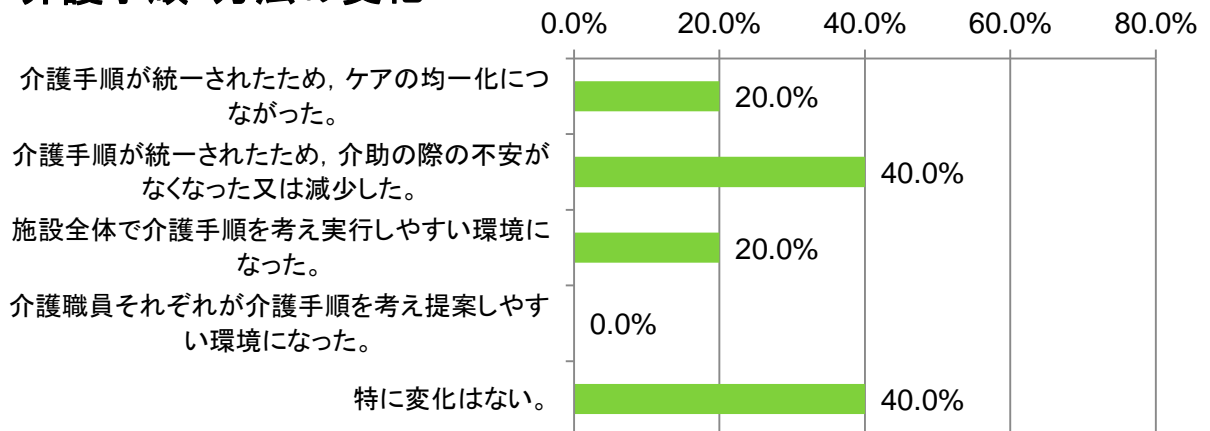
#### 身体的負担

- かなり軽くなった
- 軽くなった
- 変化はない
- 重くなった
- かなり重くなった
- 未回答



#### 心理的負担

#### 介護手順・方法の変化



### 3 事業者別検証結果 (F)

事業者：F

試用リフト：固定型

活用場面：入浴時

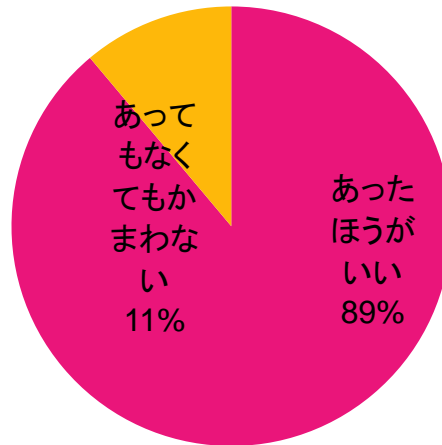
リフト対象者率：28.8%

リフト使用率(平均)：100.0%

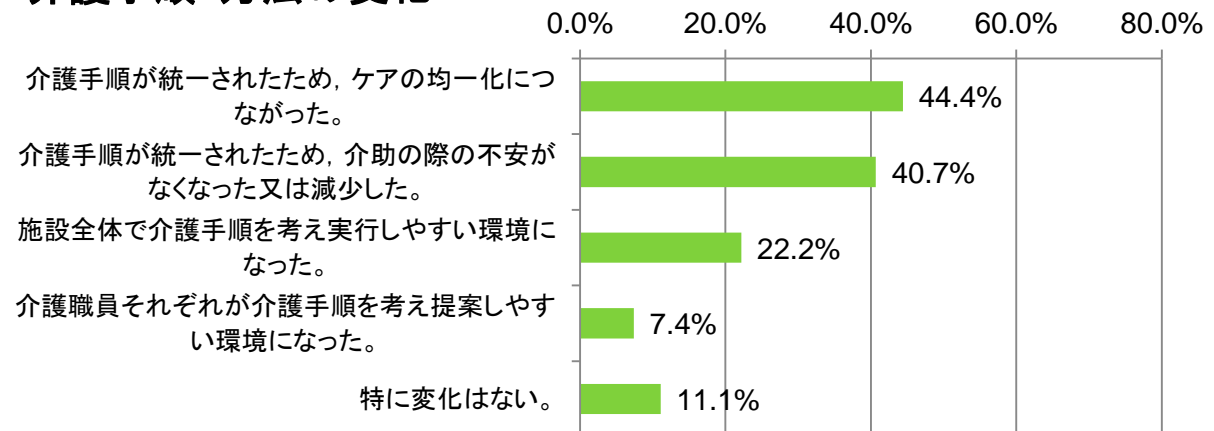
○ 導入決定(同機種)

- ・ 職員からは腰の負担が大きく減少したとの声が多い。
- ・ 腰痛がモチベーション等心理面に影響。心理的負担も減。
- ・ 入所者の重度化が進んでおり、個浴での対応が必要。
- ・ これまでシャワー浴だった入所者が入浴できており、職員・入所者ともに充実感を得ている。
- ・ ADL低下の方、スリングシートごと浴槽に移乗して入浴できバランスが保たれるため安心してゆったりと入浴できている。
- ・ 入所者の方の拒否がみられた場合にはシャワー浴にするなど臨機応変に対応している。
- ・ 業者からの操作方法の説明も数回あり、安心安全に使用できた。
- ・ 今後も定期的に操作方法の説明を受ける機会がほしい。

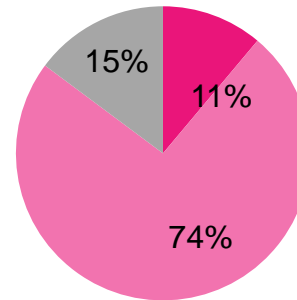
#### リフトの必要性



#### 介護手順・方法の変化

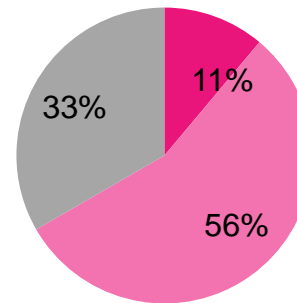


#### 身体的負担



- かなり軽くなった
- 軽くなった
- 変化はない
- 重くなった
- かなり重くなった
- 未回答

#### 心理的負担





### 3 事業者別検証結果 (G)

事業者：G

試用リフト：床走行型

活用場面：ベッド⇄車イス

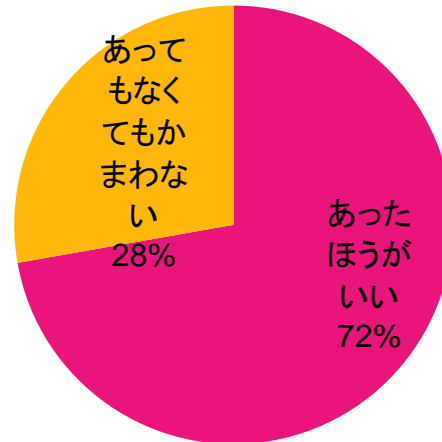
リフト対象者率：5.0%

リフト使用率(平均)：88.8%

○ 導入準備中

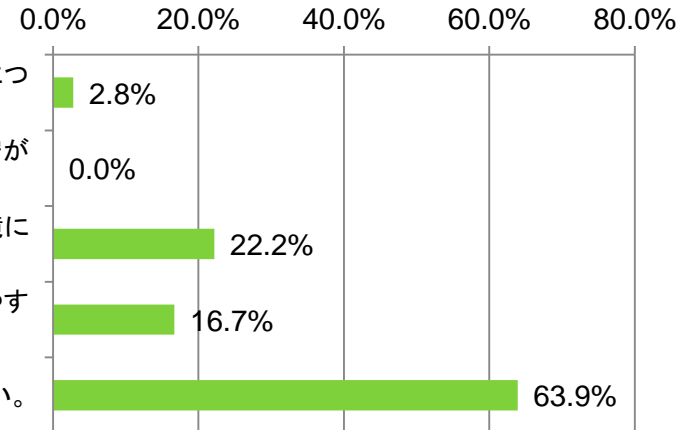
- ・ 腰痛が軽減した声はない。
- ・ 慣れない職員は2名で行っていた。体重が重い入所者のリフトが動かせないこともあった。
- ・ スリングシートが適しているか、装着が適正か不安を感じた。
- ・ 入所者から慣れないためか不安との声が聞かれた。
- ・ 指導者向けの説明がもう少しほしい(回数・内容充実)。応用やシートの選び方など指導者側に不足する部分がある。
- ・ 研修会を開催し、不参加の職員は操作禁止としていた。
- ・ リフトやシートにルール・操作手順などの説明書きを付ける工夫をし、事故防止につなげた。
- ・ シートは3種類準備した。
- ・ 時間短縮できるとよりよい。

#### リフトの必要性

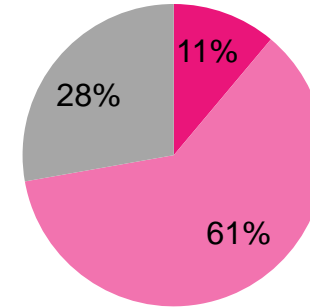


#### 介護手順・方法の変化

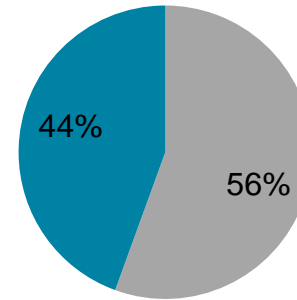
- 介護手順が統一されたため、ケアの均一化につながった。
- 介護手順が統一されたため、介助の際の不安がなくなった又は減少した。
- 施設全体で介護手順を考え実行しやすい環境になった。
- 介護職員それぞれが介護手順を考え提案しやすい環境になった。
- 特に変化はない。



#### 身体的負担



#### 心理的負担



### 3 事業者別検証結果 (H)

事業者：H

試用リフト：床走行型

活用場面：ベッド⇔車イス

リフト対象者率：11.4%

リフト使用率(平均)：71.2%

○ 導入決定(同機種)

・ 腰痛が緩和された。職員の体調や身体能力によらず、安定して移乗が可能。介護事故への恐怖や気負いが減った。

・ 1人介助。時間は2～3分→5～6分程度に増。ただし、職員配置が手薄になることが減った。

・ 施設内指導者による講習を複数回実施。当初は使用に緊張や不安があったが、慣れと声かけで解消。職員の技術も向上。

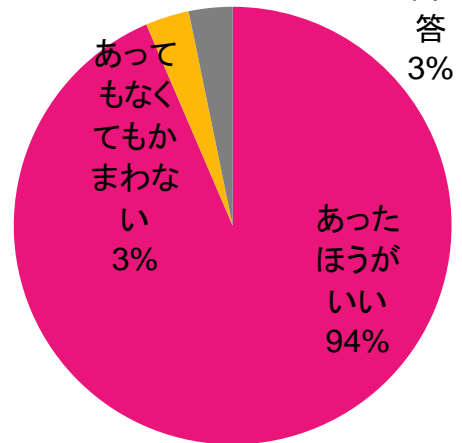
・ 不安な場合等、2名で相互に安全を確認している。

・ ベッドや車椅子の形状を確認し、買換え等施設の環境整備も必要。

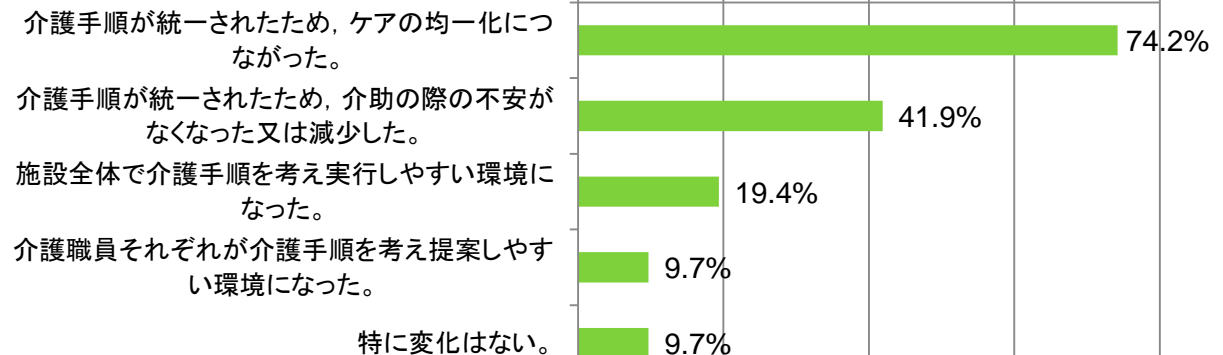
・ シートの敷込みが重要。ずれがあった場合に入所者の痛みを誘発することになる。

・ リフトや車椅子のシーティングに関する講習をしてほしい。

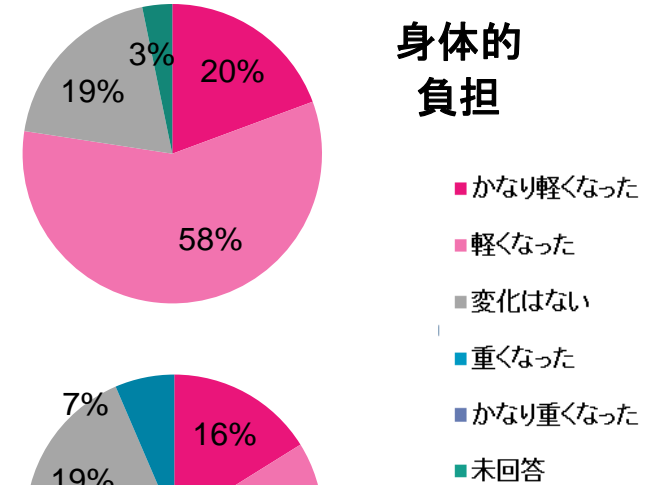
#### リフトの必要性



#### 介護手順・方法の変化



#### 身体的負担



#### 心理的負担